

# 福島県立図書館

## 第1節 概 要

最近の社会の急激な進展に伴い、多様化、高度化する住民の学習要求にこたえ、それに必要な知識や情報を提供する場としての公共図書館の利用が見直されつつあり、図書館の果たす役割は、利用者の拡がりとともに、さらに重要性を増している。

これら利用者の期待と要求にこたえるべく、県立図書館としては、県内の資料センターを旨として資料の整備充実を図るとともに、館内一般閲覧業務の充実等、次に掲げる事項に重点をおいて、積極的に図書館活動を行った。

- (1) 図書館資料の質的充実
- (2) 調査相談機能の充実
- (3) 相互協力事業の推進
- (4) あづま号の効果的運用
- (5) 親子読書文庫の強化
- (6) 読書普及活動の推進

なお、懸案の新館建設については、諸情勢を踏まえながら実現を旨として、さらに推進していきたい。

### 1 図書館協議会

図書館法に基づき設置するところの図書館協議会委員について、下記のかたに委嘱してあるが、図書館の運営その他について意見を求めるなど、協力をいただいた。

氏 名	役 職 名
藤 井 勇	県立安達高等学校長
菅 原 仁	福島市立信陵中学校長
佐 藤 清 子	田村郡婦人会連絡協議会長
長谷川 次 男	喜多方市中央公民館長
辺 見 正 治	福島市教育委員会教育長
小 林 忠 道	福島商工会議所専務理事
高 橋 清	NHK福島放送局長
高 山 聡	県信用保証協会専務理事
佐 藤 俊 夫	県地方労働委員
大 野 雅 人	県 議 会 議 員

## 第2節 整 理 事 務

昨年度に引き続き、未整理図書等の整理に意を注ぎながら、小野崎文庫の受贈、更に福島信夫ライオンズ児童文庫、原町市の東北建設株式会社からの寄贈等、受け入れ冊数は大幅に昨年を上回った。

### 1 資料の収集

#### (1) 一般資料の収集

収集委員会においては、基本図書、参考図書を各部門にわたって精選し、更に今まで比較的薄いと見られた産業部門について蔵書診断を実施し、その充実を図った。

#### (2) 郷土資料の収集

市町村の編さんした各市町村史は大半がそろい、郷土史研究に大いに利用されていることは喜ばしい。更にかくれた歴史、芸術、文学等に関する出版物も、年々寄贈される量が増えてきていることは、県立図書館の存在、あるいは使命といったことを県民が理解してくれていることの表われであり、今後各方面にPR方について、一層の協力をお願いするものである。

#### (3) 資料の受贈

児童に読書習慣を身につけさせてほしいということで福島信夫ライオンズクラブ(松崎猪之助会長)から50万円500余冊、また原町市東北建設(太田豊秋社長)が創業百年を記念して200万円の寄附があり、館内の児童室は面目を一新することができ、また館外奉仕においては、新しい読書活動の方向を見いだすことができた。

### 2 図書館資料の整備

#### (1) 蔵書の検討

産業のうち、いわゆる第一次産業部門については、資料も少なく、また内容の変化が著しく、専門的な分野までは手が回らないとしても、新しい情報を提供できることが、公共図書館としての責務であり、専門家の手を借りて、診断をし、資料のリストアップを依頼した。委員は次のとおりである。(産業部門)

西山 泰男	県農業短大教官	農業一般
大橋 昭	〃	畜 産 業
小田島哲夫	県立福島農蚕高校教諭	林 業
吉田 肇	県農政部水産課技師	水 産 業
宮島宏志郎	福島大学教官	商 業
今村 秀夫	〃	〃

#### (2) 蔵書目録の刊行

昭和50年度に受け入れられた6,550冊について、増加目録を刊行した。

#### (3) 資料の受け入れ、整理状況(昭和51.4~52.3)

前記の寄贈図書等のため、総数7,000冊を越えたが、目録カードの作成を外注することによって、整理作業もスムーズに回転したことも特筆される。

	購入	寄贈	編入	管理費	計
一般図書	2,620冊	2,154冊	174冊	2冊	4,950冊
児童図書	1,639冊	546冊	0冊	0冊	2,185冊
計	4,259冊	2,700冊	174冊	2冊	7,135冊